

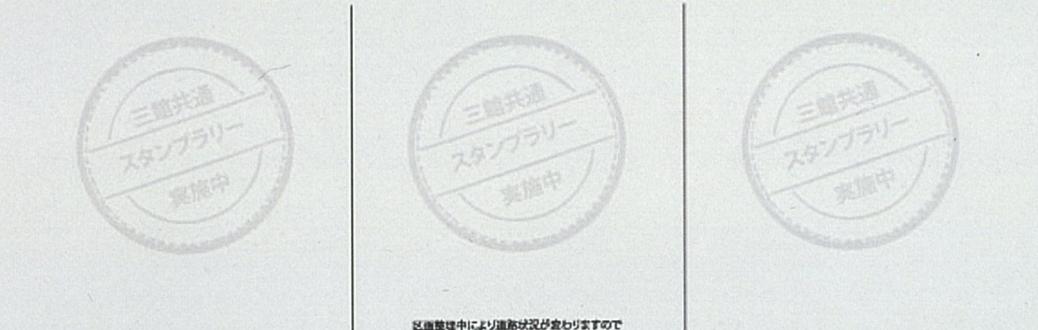
Ebihara

Kinosuke Ebihara the 50th Memorial year from his death
児玉美術館・三宅美術館・長島美術館 連携企画

三館スタンプラリー

児玉美術館・三宅美術館・長島美術館の3館では、連携企画としてスタンプラリーを実施中。
以下の欄に3館のスタンプを集めると、海老原喜之助ポストカード（各館提供）をプレゼントいたします。
ぜひこの機会に、3館の展示をお楽しみください。

児玉美術館 三宅美術館 長島美術館



区画整理により道路状況が変わりますので
詳しくはウェブサイトをご覧ください



初!
2020
三館
連携

児玉美術館・三宅美術館・長島美術館 連携企画

Kinosuke Ebihara the 50th Memorial year from his death

没後 海老原 喜之助展 50年

海老原喜之助全版画と陶板展

児玉美術館
月曜休館

春 5/19(火) → 7/12(日)



進化しつづける筆致

三宅美術館
水曜休館

夏 7/18(土) → 9/15(火)



油彩、水彩、デッサン…描きつづけた日々 長島美術館
火曜休館

「考える人」



秋 9/19(土) → 11/23(月・祝)

「男の顔」

「北極」

海老原喜之助没後50年を記念した民間美術館連携企画！

主催：「海老原喜之助没後50年記念事業実行委員会」
会場：児玉美術館【月曜休館】 岩見島市立岩見島市下福元町 8251-1 ☎ 099-262-0050 三宅美術館【水曜休館】 岩見島市立岩見島市谷山中央 1-4319 ☎ 099-266-0066
長島美術館【火曜休館】 岩見島市立岩見島市東 3-42-18 ☎ 099-250-5400
後援：鹿児島県、鹿児島市教育委員会、南日本新聞社、NHK 鹿児島放送局、MBC 南日本放送、KKB 鹿児島放送、KTS 鹿児島テレビ、KYT 鹿児島県民テレビ
【この事業は鹿児島市の文化芸術活動活性化補助金の補助を受けて実施しています】

没後50年海老原喜之助展

Kinosuke Ebihara the 50th Memorial year from his death
児玉美術館・三宅美術館・長島美術館 連携企画



児玉美術館 5/19(火)～7/12(日)

海老原喜之助全版画と陶板展



左から：風／舟を作りたる人／人と馬／天使墮ちる

【車】「鹿児島中央駅」より車で約40分
【JR九州】指宿枕崎線「坂之上」駅下車のちタクシーで約7分
【バス】谷山動物園線または指宿・枕崎線「影原」下車の徒歩約25分（車で5分）
【かごしまコミュニティバスあいぱす】「谷山南部地区」草野下始発便または野町ルート「児玉美術館前」下車すぐ



鹿児島県鹿児島市下福元町 8251-1

TEL 099-262-0050

開館時間：10:00 - 16:00 休館：月曜

ギャラリートーク
大島 久氏
6/7
14:00～15:00 (日)

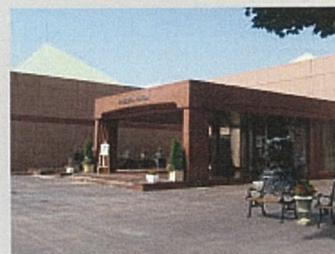
三宅美術館 7/18(土)～9/15(火)

進化しつづける海老原喜之助の筆致



左から：スケート／風／雪景／花を挿ぐ／雨降る川岸

【車】九州自動車道「谷山IC」より約10分
【JR九州】指宿枕崎線「谷山」駅下車のち徒歩8分
【鹿児島市電】「谷山」電停下車のち徒歩1.5分
【バス】鹿児島交通バス・鹿児島市営バス「谷山支所通り」バス停下車のち徒歩5分



鹿児島県鹿児島市谷山中央 1-4 3 1 9

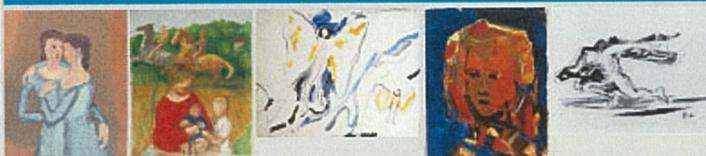
TEL 099-266-0066

開館時間：10:00 - 16:30 休館：水曜

ギャラリートーク
古家良一氏
8/22
14:00～15:00 (土)

長島美術館 9/19(土)～11/23(月・祝)

油彩、水彩、デッサン…描きつづけた日々



左から：二人の女／婦人像と駒馬／娘／ネッカチーフの女／走る人

【車】九州自動車道「鹿児島IC」より鹿児島市内方面「武岡トンネル」経由約10分
【JR九州】「鹿児島中央駅」西口より車で約5分
【バス】鹿児島中央駅東22番乗り場より
鹿児島交通(11,13,17,18,20,27,30,33番線)または
南国交通(武岡ハイランド行)乗車→「武中学校下」
バス停下車のち徒歩坂道上り20分

鹿児島県鹿児島市武 3-4 2 - 1 8

TEL 099-250-5400

開館時間：9:00 - 17:00 休館：火曜

(入館は16:30まで)

学芸員ガイドツアー
会場中毎週
日曜
14:00～

EBihara

Kinosuke Ebihara the 50th Memorial year from his death
児玉美術館・三宅美術館・長島美術館 連携企画

初!
2020
三節
連携

連携企画展によせて

日本の近代洋画壇において大きな貢献を果たした画家のひとりである海老原喜之助(1904～1970)。10代でパリに渡るとエビハラブルーとよばれる独特な青い画風で一躍時の寵児となり、帰国後は独立展を中心に活躍しました。

パリで客死してから50年、地元鹿児島の美術館にそれぞれの趣旨に沿ってコレクションされてきた海老原喜之助作品の収蔵品展を、この度連携企画としてみました。各館の個性あふれる作品の数々をお楽しみください。

海老原喜之助 略歴

西暦	和暦	年齢	概要
1904	明治 37	0	9月13日、鹿児島市住吉町で御産物問屋を営んでいた父・海老原與之助、母・た加の二男として生まれる。
1917	大正 6	13	4月、鹿児島県立志布志中学校(現・志布志高校)に入学。
1919	大正 8	15	同級生の吉井淳二に刺激され、油彩画の道具一式を買い、油絵を始める。
1921	大正 10	17	夏休みを利用して上京、東京美術学校受験に備え川端画学校に通う。有馬新馬に渡仏を勧められる。
1922	大正 11	18	志布志中学校卒業、3月の卒業式を待たずに吉井淳二と上京、川端画学校に通うが、フランス留学を決意し、御茶ノ水の「アテネ・フランセ」でフランス語を学ぶ。
1923	大正 12	19	6月、横浜港から渡欧の途につき、7月パリ着。中川紀元の紹介状を持って、藤田嗣治のアトリエを訪ねる。以後「オヤジ」「エビ」と呼び合うなど深い薰陶を受けていく。
1924	大正 13	20	キスリングと交友する。11月、サロン・ドートンヌに入選。
1926	大正 15	22	パリのベルシェ画廊で初めて絵が売れる。この頃ピカソと出会い、またバスキアと交友する。
1927	昭和 2	23	1月、ベルギー女性アルスと結婚する。7月、第10回サロン・ド・レスカリエに、カンビーリ、ジャコメッティらとともに招待され15点を出品。同展がきっかけで、パリの画商アンリ・ピエール・ロシェと契約(1932年まで)。
1929	昭和 4	25	ニューヨークでロシェ企画による海老原の第2回個展が開催される。この頃から、黒と白の階調の作品から、次第に青と白の雪景シリーズに移っていく。10月、世界恐慌が始まる。
1930	昭和 5	26	《スケート》《雪景》《雪山と桜》《雪中行軍》《雪景と群がるズズメ》《雪中群馬》などを制作。
1932	昭和 7	28	ベルギー、アントワープで個展を開催。雪景シリーズが「エビハラブルー」と称賛される。《北極》(長島美術館所蔵)。
1933	昭和 8	29	11月、世界恐慌のあおりを受けてエコール・ド・パリの経営とともに妻と離別し二兄を連れ帰国。
1935	昭和 10	31	2月、兒島善三郎、高島達四郎の推薦で、独立美術協会会員に迎えられる。第5回独立展に《曲馬》を出品。
1940	昭和 15	36	稻葉幸子と再婚。
1945	昭和 20	41	7月、熊本県に隠居、9月、人吉市に転居。
1946	昭和 21	42	11月、吉井淳二とともに南日本美術展(南日本新聞社主催)の創設に尽力する。晩年まで審査員を務める。
1950	昭和 25	46	11月、第1回南日本文化賞受賞(南日本新聞社)。
1951	昭和 26	47	4月、海老原美術研究所(エビ研)を熊本市南坪井町に開設。この頃、鹿児島県伊佐市、霧島焼の窯元に通い、陶器の絵付けを行う。
1954	昭和 29	50	10月、第22回独立展に《船を造る人》を出品。《考える人》(児玉美術館所蔵)。
1959	昭和 34	55	11月、第14回南日本美術展に海外派遣美術留学制度を設けるのに尽力する(隔年ごとに同展入選者から1人を選び、1年間ヨーロッパに留学させるもの)。
1964	昭和 39	60	3月、前年開催の海老原喜之助自選展と《雨の日》に対して、芸術選奨文部大臣賞が授与される。
1965	昭和 40	61	5月、モスクワ経由でロンドン、スペインを旅行しパリに至る。8月、帰国。鹿児島県立霧島試験所で陶製レリーフをつくる。第33回独立展に《男の顔》(三宅美術館所蔵)を出品。
1967	昭和 42	63	10月、渡仏。
1968	昭和 43	64	1月、藤田嗣治死去、葬儀で夫人に代わって謝辞を述べる。
1969	昭和 44	65	5月、ブルターニュ、ロワール地方の旅行中、発熱嘔吐する。
1970	昭和 45	66	9月19日、パリにて肺がんで死去。
1971	昭和 46	-	南日本美術展の留学制度が海老原賞に名称変更される。